



# 美幌町応援団バンクーバーオリンピック 観戦記

北見地区 早川 志津雄

2010年2月12日（現地時間）からカナダで開催されたバンクーバーオリンピックの美幌町出身選手の応援団長として、2月24日成田からクロスカントリースキー石田正子選手の両親を含め8名でバンクーバー国際空港に向かいました。石田選手は2009年ワールドカップ杯トロンハイム大会の女子30kmクラシカルで3位入賞を果たし、クロスカントリースキーの長距離種目において、日本人で初めて表彰台に上がる快挙を遂げた選手で、美幌町の誇りでもあります。

.....

時差17時間後、カナダバンクーバーに到着。国際空港ホテルに滞在するため、荷物をホテルに預け、現地ガイドの案内でバンクーバーの開会式会場等を一回りした。実は15・6年前に、10日間ほどスキーツアーで訪れたことはあるが、当時とは違ってオリンピック一色で公園等も大変きれいに整備され、「オリンピック効果はすごい」と感心させられました。



バンクーバー市街の「ジャパンハウス」にて

バンクーバーは2月だというのに桜が満開になっており、ちょっとビックリ。

横浜との姉妹都市提携を結んでおり、30万本の桜の樹が贈られているそうです。人口は約200万人で日本人3万人、中国人30万人が住んでおり、店の看板・道路標識は英語と中国文字だらけです。中国人が多いのは、カナダの鉄道建設のために、労働者が中国からたくさん移民し、住み着いたのが今日の繁栄に繋がっているようで、前記の英語と中国語の看板ばかりが目につくというのが判ります。

.....

この度のオリンピック応援は、我が町美幌出身のクロスカントリー石田選手がオリンピック代表になり、町をあげて応援することになったからである。



石田選手に町民からの寄せ書きを渡す

最初のレース（現地25日）クロスカントリー女子は、リレー（4人×5km）で1走夏見選手6位で2走石田選手にタッチ、この2走区間は各国のエース級が顔をそろえる厳しい区間ではあるが、2人に抜かれ、3人を抜き5位で3

走福田選手にタッチ、4走柏原選手とつないだが、結果は9位で残念ながらオリンピック初入賞はなかった。



リレー会場にて 右から福田・夏見・石田の各選手と応援団の皆さん

レース後、石田選手本人に会うことが出来、話を聞くと「ワックスが合わなくて順位を一つしか上げられなくてすみません！」と謙虚な姿に感銘を受けました。

「次の30kmは頑張るから」と言い残しコースに戻っていきました。

27日は石田選手が的を絞って挑戦する「女子30kmクラシカルレース」当日は早朝4時30分に起床。外を見ると大雨、標高900mのウイスラーの予報は雪との事。

バンクーバーから競技会場へ移動する3時間余りの間はずっとみぞれであった。会場は予報通り湿気の高い雪で、用意したカッパ、傘で雨交じりの湿雪をしのぎながら応援会場に向かいました。現地では、石田選手の所属するJR北海道の応援団と一緒にになり、談笑しながらレース前のアップをしている各国の選手の姿を見ているうちにスタートの時間が近づいてきた。

応援する場所から、スタジアムのスタート位置を見ると夏見選手と石田選手が「手タッチ」しているのが見えた。大変ほほえましい光景。

30kmは、一周5kmのA・Bコースを各3周ずつ走るコースで、我われ応援団の前を6回通過することになる。観客や応援団にとっては、非常に見ごたえがあり、応援のしがいのあるレースであった。



JR北海道の応援団と一緒に

1回目5kmを通過する登りで、トップグループに食らいついていたが、「若干スリップしているな」と見ていた時、石田選手はスタジアムに入ると突然スキーを交換したのである。

他の選手は交換しない選手も多かったが、この種目の大会では昨年の世界選手権から長距離に限り、3回スキーの交換ができるようになった。ちなみに石田選手は、5kmと20kmで2回交換している。

スキーの交換は大きな賭けでもあり、レース中の判断、決断、勝負どころでの集中力が鍵となるが、さすが石田選手は、世界選手権など海外転戦を約10年ほども続けており、この豊富な経験から冷静に判断し、決断できたものと思った。

レース中5kmでスキーを交換した時は、32・3位まで順位を落としたが、それから徐々に追いつき、最終回には上位グループに上がってきた。応援団は石田選手が目の前を滑走して行くたびに大声援を送る。最後の登り坂を石田選手を含めた強豪選手4人が、追いつ追われつで登ってきた！このグループは5位から8位までの入賞可能グループで、石田選手は我われ応援団の前を通過するときに5位に上がった。

その時の応援団は、絶叫！絶叫！の大声援！あの時の感動は今でも忘れられません・・・

石田選手は5位のままスタジアムへ、我々も応援していた場所から7・80メートルを全力で駆け下り、スタジアムで「石田ァ～！石田ァ～！」と大絶叫!!涙ながらの大応援でした。



「美幌町民応援団」右から2人目が筆者

石田選手が両手を上げながらゴールしたのを確認し、応援団同士がいつの間にやら握手をし、抱き合い、彼女の5位という快挙に本当に興奮させられたオリンピック観戦でした。

今は子供たちが激減し、寂しい状況にありますが、将来石田選手、夏見選手のような選手が現れて欲しいと願う一人である。

また、出発に際し沢山の方々からご支援をいただき感謝を申し上げ、報告に代えさせていただきます。ありがとうございました。

(北海道スキー指導者協会理事)



## 新語情報メモ

### 日本ジオパーク（日本地質遺産）

世界的に貴重な地形や地質、火山、断層などを有する自然公園を認定する「世界ジオパーク」の国内版。

日本ジオパーク委員会が認定するもので、9月に遠軽町の「白滝黒曜石遺跡」が日本ジオパークネットワークへの加盟認定を受けた。道内では、洞爺湖・有珠山とアポイ岳に続き、3件目となる。

今年は、高知県の「室戸地域」が世界ジオパークの候補地に選出されている。

#### ●白滝黒曜石遺跡

大規模な火山活動で生み出された黒曜石の国内最大級の原産地。黒曜石を使った旧石器時代（2万5千年～1万年前）の遺跡群など、考古学的な資源もある。遠軽町では、国内で3箇所しかない「世界ジオパーク」への認定を目指している。